

2018年9月27日 (木曜日)

静岡 三島駅前高層マンション計画

街の財産 湧水心配

「三島駅前に1000坪の高層マンションは必要ない」。静岡県三島市が市民合意のない再開発事業を進めていることから、富士山の眺望、湧水を心配する市民が「再開発をいったんストップさせ市民合意の事業にさせよう」と運動しています。(静岡県・内田伸治)



三島駅南口の東街区で進められている再開発事業は、現在駐車場となつている市有地など約1・3畝に、高さ99・5mの

高層マンションや商業施設などを建設する計画で、2025年完成予定。総事業費は220億円、市は61億円を負担します。市は、市民が反対する中、地権者やミサワホームが代表となる共同企業体と事業協定を締結しました。

市民「合意ない 中止を」



事業協定締結に抗議する渡辺さん(前列左から2人目)ら=8月28日(渡辺さん提供)

景観が激変し、三島らしさが失われ、取り返しのつかない事態になってしまつ」といいます。東街区の直下には、富士山からの三島溶岩流の地下水本流が流れており、「水の都・三島」の命を先頭に立ち、市民と方顔といえる貴重な湧水をあわせ再生しました。

クローズアップ

さらに市民が心配するのは、民間事業に61億円も使って、市の財政は大丈夫なのかという問題です。事業費はさらに増える可能性があり、今後30年間で公共施設、道路や河川などの管理費用に毎年47億円が必要とされ、建て替え急務の市役所本館の建設費用は80億円かかります。市は今でも390億円の借金がありまして、「こんな中で再開発事業が実施されれば財政破綻だ」「大企業と一部の人がもつて、ツケは市民に回ってくる」と不安が広がっています。

現在、南口や市内から富士山の美しい景観が見られます。これを阻害する高層マンション計画は「三島っ子の品格と誇り、愛郷心を傷つけるものだ」と市民から怒りの声があがっています。川勝平太知事も「玄関口に高層マンションは似合わない」と発言しています。

市長態度に批判

事業計画に反対する住民は7月23日、豊岡市長に、事業内容を見直し、市民総意の計画をつく



応接室に座り込む豊岡市長=7月23日、三島市役所(渡辺さん提供)

市議会では、説明会が開かれたものの、時間制限があり、再開発事業の協定書案を回収する始末で、十分な説明がされていません。日本共産党(2人)は保守系議員など(6人)と共闘し、豊岡市長の暴走ストップへ力をあわせています。

眺望にも懸念が

「三島駅南口の整備を考える市民の会」の渡辺豊博代表は、「高層マンションが建設されれば、三島の財産である湧水が減少し、富士山の見える